

長崎検定一級さん

Vol.5

興味を持つて全力で当たれば

藤山謙司さん

合格率四・八%。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言
ありそうです。

ざつくばらんに寄稿願いました。

自衛官という仕事の都合上、どうしても異動が伴う私にとつて「一回目の単身赴任となつた長崎に着任した二〇〇六年八月は「長崎さるく博'06」の真っ最中でした。休日、たまたま浜町で目にした「さるく」のパンフレットを手にし初めて歩いたコースが中島川・寺町でした。石橋、寺巡りで気になつたのが文字の読み方。まず興福寺山門の説明板に書かれた「黄檗宗」の文字。何と読むのか？これが長崎の歴史・文化に興味、好奇心を持つ原点であつたと思ひます。その後、全四十二コースを「さるく」するうちに長崎の魅力にぐんぐんと惹かれ史跡、文化財などに歴史・文化の深さ、キリスト教文化とのかかわり合い、出島・唐人屋敷の役割、居留地造成と外国文化の吸収など、日本の発展に欠かすことのできない重要な歴史舞台の場所であつたことを認識しました。

とにかく長崎赴任当時の私は、出島も平戸も一緒になつていた程度の知識しかなかつたものですから。「さるく博'06」も終わりのころ、翌年一月

に長崎検定があることを知り、思い切つて一級に挑戦しようと、約四カ月間歩き回った実績をバネに検定テキストと長崎さるくマップブックを中心に勉強し、何とか合格することができ一級挑戦の足掛かりを掴めました。

二〇〇七年は、長崎市の文化財、長崎学ハンドブックなどの本を中心史跡、歌碑等を一つひとつ確かめようと、休日のほとんどはリュックを背負い、地図と本を携行し一日六時間前後歩き回ることが樂しみとなり、ますます深みにはまつてしましました。この約一年間の経験が大きく自信となり一級への挑戦を後押ししてくれたと思ひます。

最近は、古地図や町並みの変遷などに興味を持ち始めたところで、また、郷土史家が書かれた歴史散歩の本などを片手に人のあまり訪れない場所などをじっくりと「さるいて」樂しもうとしていた矢先、関東方面に異動となりました。

長崎検定挑戦で、五〇歳過ぎても新しいことに興味を持ち全力で当たればきちんと

果がついてくることを教えられ、私にとつてかけがえのない場所となつたこの地を去ることは誠に名残惜しい限りです。

今後、長崎は、「長崎くんち」「ランタンフェスティバル」等の年中行事のほか、中心的な役割が期待されるキリスト教関連遺産と近代化産業遺産群の世界遺産登録やNHK大河ドラマ「龍馬伝」などで歴史の町・長崎をアピールする機会も多くなり、ますます魅力的な町へと発展していくものと思ひます。

長崎を離れてもその歴史・文化の奥深さを引き続き学んでいき、今後、何らかの形でお役に立てればと思つておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



【プロフィール】

1953年山口県生まれ。1978年九大大学院卒。防衛省(庁)海上自衛隊入隊後、艦船の修造業務にかかわる仕事に従事。趣味はジョギング、切手収集。現在、埼玉県在住。